

第1回 障害者支援施設 明朗塾 地域連携推進会議 議事録

1 開催日時・場所

令和7年10月7日、10時00分から障害者支援施設明朗塾会議室において第1回障害者支援施設 明朗塾、地域連携推進会議を開会した。

2 出欠の記録

当日の出席状況は以下のとおりである。

会議の構成員	ご所属・氏名	出欠記録
障害のあるお客様（選定必須）	Y・A様	○
利用者ご家族様（選定必須）	H・K様	○
地域の関係者様（選定必須）	並木良友様	○
福祉に知見のある人（選定任意）	社会福祉法人寿陽会 障害者支援施設 コスモ・ヴィレッジ 施設長 塚本大輔様	×
経営に知見のある人（選定任意）	社会福祉法人清郷会 常務理事三橋郷留氏	○
施設等所在地の市町村担当者（選定任意）	八街市役所 福祉部 障がい福祉課 主査捕 竹ヶ原慎太郎様	○
会議の運営に必要な職員	障害者支援施設明朗塾	○

3 議事次第について

1 理事長あいさつ

社会福祉法人光明会の理事長小澤啓洋より開催あいさつを行った。

2 地域連携推進会議の開催について

理事長小澤啓洋より地域連携推進会議の開催について導入背景、対象支援福祉サービス、会議の目的、地域連携推進会議の構成および開催、守秘義務について説明を行った。

3 施設等やサービスの透明性・質の向上について

1) 障害のあるお客様の日常生活の様子について

サービス管理責任者森田拓実より広報紙にもとづき説明を行った。

【Y・A様】

・アート活動に使用する道具を増やしてほしい。前は一般企業で働いていたのでまた企業で働きたい。

【H・K様】

・自分の子供も得意なものは出来るが苦手なものも多い。職員の皆様は温かく見守ってくれている。布団をきれいに畳めたり落花生のから剥き作業は集中して出来る。今後も積極的に声掛けしてほしい。

【並木良友様】

・みんな個性があってよい。伸ばしてあげるところを伸ばし、苦手なこともある。良いところを伸ばしてあげてほしい。農業をすごく頑張っている障害のある方もいる。

【三橋郷留様】

- ・私の勤務する事業所を利用する障害のある方の最高齢は 93 歳、高齢化が進んでいる。車いすの方も 6 名いる。高齢化によって日中の活動はどんどん減ってきている。個別の活動から一人ひとりの自己実現を目指していくかがポイントになる。

【竹ヶ原慎太郎様】

- ・障害者支援施設明朗塾の農作業に関連するチームにおける取組により地域との関りが増えていることはとても良いことである。

2) BCP (業務継続計画) の策定状況について

施設長兼坂渉より、自然災害発生時における業務継続計画、新型コロナウィルス等感染症発生時における BCP (業務継続計画) について説明を行った。

【Y・A 様】

- ・コロナのことや震災のことは忘れた。

【H・K 様】

- ・感染症や地震など大変なことがたくさんあった。その時の職員の行動に本当に感謝している。実際にボヤ騒ぎがあった時には子供も避難訓練を実施していたから役に立ったと言っていた。ありがたく思っている。

【並木良友様】

- ・またいつかパンデミックが起きるかもしれない。2019 年の台風 10 号の時は 12 日間停電があった。その時には障害者支援施設明朗塾の隣に住んでいることで物資面において助けられた場面も多くあった。

【三橋郷留様】

- ・施設だからこそ出来る防災がある。今後も防災に関しても役に立てるようにしてほしい。自法人では県外の施設から援助がもらえるよう体制を整えている。
- ・発電機などを有事の際に職員がしっかりと始動できるよう準備を進めていく必要がある。

【竹ヶ原慎太郎様】

- ・新型コロナウィルスが蔓延している時は防護服などを使用していたが今は大分落ち着いている。逆に情報が発信されなくなってきた。近くに大規模な施設があることの安心感は大きいのでは。

2 施設等と地域との連携について

1) 障害者支援施設明朗塾の取り組みについて

施設長兼坂渉、サービス管理責任者森田拓実より地域連携に関する取り組みを説明した。

【Y・A 様】

- ・めいろう大花火まつりでは食べ物を楽しみにしている。

【H・K 様】

- ・頑張れば地域での生活が出来ると思っている。小学校、高等学校の時には近所を歩いていた時に近所の人が声をかけてくれた。夏にはアイスキャンディーをくれた人もいた。地域には親切な人もいることは日々、感じている。

【並木良友様】

- ・夏まつりは毎年、楽しみにしている人が多い。だから中止と聞いた時には皆、がっかりしていた。11 月 8 日の大花火まつりは楽しみにしている。

【三橋郷留様】

- ・地域とのつながりはいわゆる地域共生社会とも言われるがこれは日々、地域での活動に参加している積み重ねに他ならない。イベントごとはお金もかかるがお金には代えられない取り組みがたくさんあると感じた。

【竹ヶ原慎太郎様】

- ・めいろう夏まつりは他市町村の方々も楽しみにしている。他者との交流が増えることはとても良いことである。明朗塾の物産品からも福祉の取り組みに興味を持ってほしいと感じる。

3 障害のあるお客様への権利擁護に関する取り組みについて

サービス管理責任者森田拓実より障害のある方への権利侵害アンケート、施設職員に対する権利侵害アンケートについて実施状況の説明を行った。

【Y・A様】

- ・アンケートを回答したがあまり覚えていない。

【H・K様】

- ・みんな、きっちりと回答出来ていてすごいと感じた。ちゃんと自分の気持ちを表現できていると感じた。

【並木良友様】

- ・権利擁護に関してはプロである明朗塾に任すしかないと感じる。頑張ってほしい。

【三橋郷留様】

- ・自法人でも年に1回、アンケートを実施するが正直へこむ内容も多い。しかしこの積み重ねがご家族や関係者との信頼関係に繋がる。アンケート結果をPDCAサイクルとしてまわし、聞いておしまいにならないよう気を付けなくてはいけない。意思決定支援は個別支援計画書に反映が必要になる。

【竹ヶ原慎太郎様】

- ・アンケートを取ればプラスの意見もマイナスの意見も上がってくる。この結果をおざなりにしないで対応していくことが虐待防止にもつながると感じる。怪しいと感じる支援はきちんと対応することを期待したい。

4 その他

参加者から意見はなかった。

以上をもって12時05分、本日の地域連携推進会議を閉会した。

参加者に対し次回の地域連携推進会議の開催日程を共有した。

○令和8年1月26日（月）10:00～12:00

（文責 障害者支援施設明朗塾 施設長 兼坂渉）